

若手女優

二十二歳

第三卷 演技派女優達の前で

全裸緊縛撮影

海老沢 薫 著

内容

■ 著作権について

■ まえがき

■ 第一章 裸踊りを強要された若手女優

■ 海老沢薫 B L O G

■ 海老沢薫 W e b 連載小説

※ 海老沢薫 B L O G

・ ・ ・ 最新作の出版情報や、そのほか各種コンテンツ情報などを配信。

<https://ebisawakaoru.blog.2nt.com/>

■ 著作権について

「若手女優 二十二歳 第三巻 演技派女優

達の前で全裸緊縛撮影」(以下本書と表記す

る)の著作権は「海老沢薫」にあります。

・本書のすべての内容は、日本の著作権法、
及び国際条約によって保護されています。

・「海老沢薫」が事前に書面をもって許可し

た場合を除き、本書の一部、または全部を、

あらゆるデータ蓄積手段(印刷物、電子フア

イル、ビデオ、テープレコーダー)により複

製、流用、転載、転売することを固く禁じま

す。

・著作権の侵害につきましては、著作権法第

61条などの罰則がありますのでご注意ください

い。

■ まえがき

急遽出演することになった深夜ドラマの撮
影現場で、共演者である同世代の先輩女優達
のアドリブ演技によって想定外の羞恥劇に巻
き込まれてしまった若手女優の神里春奈。
一糸纏わぬ姿でセットの美術室の黒板に磔
にされた春奈は、先輩女優達のアドリブの命
令によりガニ股で股間を前後に振らされるな
ど屈辱の裸踊りを披露する羽目になった。
しかし、美しい若手女優に嫉妬する先輩女
優達はそれでは飽き足らず、あろうことか春
奈の体に手を伸ばし、快感責めにして絶頂へ
と追い詰めたのだった。
「お願い、もう許してください・・・」
絶望と快樂の狭間で若手女優は悶え狂い、必
死に許しを乞うたが、その願いが先輩女優達
に届くことはなかった。

撮影スタジオにいる共演者やスタッフ達の
見つめる前で何度も痴態を晒した春奈は、つ

いに先輩女優達に対して屈服宣言し、彼女達の玩具となることを誓わされる。

そうして、早速先輩女優は春奈に対し、屈辱の命令を突き付け、哀れな若手女優は公衆の面前であまりに過激で恥知らずなセリフを吐かされるのだった。

■ 第一章 裸踊りを強要された若手女優

撮影スタジオに設けられた美術室のセット
の中では、若手女優の神里春奈が素っ裸にさ
れ、黒板に背を向け磔にされていた。周りを
取り囲む制服姿の女優達は、春奈のスタイル
抜群の体を暫し上から下まで舐め回すように
見つめ、自分達よりも圧倒的に女性的で美し
い肢体に嫉妬の炎をメラメラと燃やしていた
「とつても良い格好だわ（笑）」
「こうやって見ると滅茶苦茶エロい体だよ
「オッパイもお尻もボリュームがあつて羨
ましいわ。こんなにスケベな体してるならセ
クシー女優にでもなりなよ」
いじめっ子役の女優達は、今撮影しているシ
ーンが放送されることはない、と知りながら、
自分達の加虐心を満たすためだけに演技を続
けていた。

さつき、その手で春奈をイカせたいじめら

れっ子役の片瀬は、相変わらず役に入りきり
弱々しい姿を見せていたが、心の中では満面
の笑みを浮かべ、目の前の美しい獲物を徹底
的に辱めてやりたい衝動に駆られていた。
「お願いです！もう許してください！」
全裸緊縛された春奈は、もう演技のことなど
忘れ、心の底からいじめっ子役の女優達に許
しを乞うた。
ドラマの撮影が行われているスタジオで、
共演者である同世代の女優達やスタッフ達の
前で絶頂を晒してしまっただけでも死ぬほど
恥ずかしいのに、さらに緊縛されてこれ以上
何かされるのかと思うと、春奈は生きた心地
がせず、今すぐここから逃げ出したかった。
「アンタ、親友を助けるんじゃないかっただの？
親友のためならどんな恥ずかしいことでも我
慢しなさいよ！」
「それに親友の手でイクなんて、アンタ本当
は人前で辱めを受けて嬉しんじゃないの
（笑）」

いじめっ子役の女優達はまだ演技を続け、羞
恥に咽ぶ春奈をいたぶった。
「アンタ、許して欲しいなら、とりあえず今
から私達の指示通りにそこで踊りな」
いじめっ子役の女優の一人がそう言うのと、春
奈は唇を噛みしめ、彼女の方を睨みつけた。
それは春奈のせめてもの抵抗であり、女優と
してのプライドがさせた厳しい表情だった。
「アンタ、素っ裸でそんな顔してたって全然恐
くないわよへ笑」
「じゃあ、まずはそこで腰を左右に振りなが
ら、その大きなオッパイもおもいつきり揺ら
しなさい！」
いじめっ子役の女優がそう命じると、春奈は
暫し彼女達の方を睨みつけた後、観念したよ
うに両手を縛られた格好で腰を左右に振り始
めた。
「ほら、もっと激しく振るのよ！」
「それから表情が恐いから、笑顔でやりな！
いじめっ子役の女優達は容赦ない罵声を浴び

せ、春奈は胸の奥に込み上げる悔しさを必死に堪えながら、腰をさらに大きく振り乱し、引きつった笑みを浮かべていった・

「その調子よ！」

いじめっ子役の女優達はパンパンパンとリズムカルな手拍子を叩き始め、春奈はそのリズムに合わせて腰を振らなければならなかった。

「アハハッ、面白〜い！」

「笑いながら裸踊りするなんて、アンタ本物のドスケベ女だね（笑）」

いじめっ子役の女優達が手拍子を叩きながら罵ると、春奈は悔しさのあまり思わず表情を歪めた。

「ほら、笑顔でしょ！」

いじめっ子役の女優は羞恥に咽ぶ春奈をすぐに注意し、哀れな若手女優は再び作り笑いを浮かべて卑猥な裸踊りを披露しなければならなかった。

春奈の秘部からは止めどなく厭らしい蜜が

溢れ出し、長く伸びた美脚を伝っていつしか
脚元に小さな水溜りを作り出していた。
「それじゃあ、次は両脚を開いて腰を前後に
振りなさい！」
いじめっ子役の女優がそう命じると、春奈は
両脚を肩幅まで開き、それまで左右に振って
いた腰を今度は前後に振り始めた。
「キャット、変態！」
春奈が新たな裸踊りを始めると、いじめっ子
役の女優はわざとらしく驚いたように大きな
悲鳴を上げた。
ああん、恥ずかしい・・・。春奈は自分が
共演者達の玩具となってしまうている屈辱に
激しく喘いだ。幾ら女優としてのキャリアは
彼女達の方が圧倒的に長いとはいえ、歳はほ
とんど変わらない同世代であり、そんな彼女
達の前で卑猥な裸踊りを披露することは春奈
の高いプライドを深く傷つけた。
「そしたらそのまま脚をもっと開いて腰を落
としていきなさい！」

いじめっ子役の女優がそう命じると、春奈は
屈辱に喘ぎながらもその命令に従った。
「アハハッ、このポーズ最高！」
「淫乱過ぎてなんだか笑える！」
いじめっ子役の女優達がそうはしゃぐように
全裸ガニ股ポーズとなった春奈が腰を前後に
振り乱す姿は、卑猥を通り越して何とも滑稽
に映った。
ガニ股になって大きく開かれた春奈の股間
からは腰を振る度に厭らしい蜜が周囲に飛び
散り、いじめっ子役の女優達をさらに盛り上
げた。
「キャッー、厭らしいわねえ。アンタのお汁
で私達の制服を汚さないでくれる！」
「さっきイツたばかりなのに、もうこんなに
濡らしているなんて最低く」
いじめっ子役の女優達がそう言つて罵ると、
春奈は自分があまりに惨めに思えて唇を噛み
しめた。
「ほら笑顔でしょ！」

するとすかさず容赦ないダメ出しが飛び、春奈は全裸ガニ股で腰を前後に振り乱しながら、屈辱の笑顔を浮かべるのだった。いじめられっ子役の片瀬は役に入りきったまま、目の前で羞恥責めに遭う春奈の様子を黙って見つめていた。さっき春奈の股間を弄った指は未だ春奈の厭らしい蜜でベツトリと濡れたまま、片瀬はそれを拭おうともしなかつた。むしろ、再びこの汚れた手で春奈の体を弄り倒し、自分よりも美しい同世代の女優をイカせてやりたいと思っていたのだ。真由ちゃん、もう一度アナタのお友達の体を触ってイカせてあげな！できなかったらアナタのことをこれからいじめめるわよ」

「分かりました・・・」

いじめられっ子役の片瀬は弱々しい声でそう告げると、黒板の前で全裸緊縛された春奈の

元にゆつくりと近づいて行った。
「お願い、もう止めて！」
再び片瀬の手で体を弄られることを恐れた春
奈は、必死の形相で訴えかけた。しかし、片
瀬がそんな春奈の願いを聞き入れるはずもな
く、春奈の目の前に立つと、その豊満な乳房
に手を伸ばしていった。
「ああん」
片瀬に乳房を鷲掴みされ、乳首を指先で撫で
られた春奈は思わず恥ずかしい喘ぎ声を漏ら
して天を仰いだ。
「ごめんね・・・」
片瀬はいじめられっ子の生徒役らしくしら
しい声でそう呟いたが、春奈の乳房を弄るそ
の手の動きは対照的にだんだん激しくなっ
ていった。
「ああん、いやああん」
再び同性の手で快感責めにされた春奈は必死
にそれに抗おうとしたが、すでに火照ってい
た体は一気に燃え盛っていった。

「ホントに厭らしいわねえ。親友の手で揉まれて喘ぐなんて信じられない！」
「これじゃあまたすぐにイクんじゃない。まったくどこまでスケベなのかしら」
いじめっ子役の女優達がそう罵る声が聞こえ
ると、春奈は悔しさのあまり唇を噛みしめ、
必死に理性を取り戻そうとした。もう絶対に
イカないわ・・・私はアナタ達と違って将来
必ず大女優になって見せるんだから。春奈は
心の中でそう叫び、全身に襲い掛かる快感の
波に呑み込まれないよう必死に耐えた。
すると、そんな春奈の姿を見た片瀬は、左
手で乳房を弄りながら、右手を股間に伸ばし
春奈の濡れた秘部に指を挿入していったのだ
った。
「あああん、そこはイヤああっ」
それまで必死に理性を保っていた春奈も、乳
房と秘部を同時に責められると堪らずに体を
仰け反らせて悶えた。
「お願い、私のためにイッて」

片瀬は春奈の性感帯を弄りながらそう耳元で囁いた。
「そんなこと・・・」
役を利用してまたしても自分に生き恥を晒させようとする片瀬の事を春奈は心から恨んだ。
しかし、体はもはや制御不能なまでに燃え上がリ、憎むべき相手の手によつて再び絶頂に達しようとしていた。あぁん、こんなの悔しい・・・。春奈は心の中で打ち拉がれながら、ついにはその時を迎えたのだった。
「あぁん、もうダメえ・・・イクっイクっイクっイクっ」
緊縛された春奈の体は激しく痙攣し、背中が何度も黒板に打ち付けられる音がスタジオ全体に響き渡った。

■ 海老沢薫 B L O G

・ ・ ・ 最新作の出版情報や、そのほか各種コンテンツ情報を配信。

<https://ebisawakaoru.blog.2nt.com/>

■ そのほか SNS

https://x.com/ebisawa_K

https://www.instagram.com/kaoru_ebisawa/

<https://www.pixiv.net/users/70200870>

■ 海老沢薫 Web 連載小説

『 清楚な美人妻 彩 27 歳 絵画モデル編 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=9281>

『 清純派女優 結衣 24 歳 ー 国民のペットへと堕ちていくヒロイン ー 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=18802>

『 清純派女優 結衣 24 歳 ー 女神の憂鬱 ー 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=26675>

『 女教師 玲奈 25 歳 ー 女性教諭の前代未聞の不幸事 ー 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=17186>

『 美人社長 里帆 26 歳 ー 若き女社長のブライドを砕く屈辱の契約 ー 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=18885>